

リンドウの低標高地域での栽培技術の確立  
 ~新見市の新特産品化を目指して~

岡山県立新見北高等学校

平田 真人

1. はじめに

リンドウは初夏から秋にかけて、清楚な涼感と秋の風情が味わえる花である。栽培適地は標高が500 ~ 600m, 年間平均気温が15 前後, しかも水が豊富な土地となる。

本校園場の標高は220 mの畑地といずれも適地とはいえないが山口県下関市において低標高地での栽培実証が報告されている。この条件で栽培が可能となれば新見という南北に広い中山間地で産地化に向けて大きく前進できると考え, 新見市と共同でリンドウ栽培に取り組んだ。今年度で研究を始めて4年目になる。その報告をする。

2. 計画

この栽培実証は6年計画とし, 本校で栽培有望品種を検討することにした。

第1期(平成15 ~ 17年度)岡山 栴ヶ丸, スカイブルしなの3号, スカイブルしなの4号の3品種で実施。

第2期(平成18 ~ 20年度) スカイブルしなの4号, フルハイジ, サマハイジの3品種で実施。

平成18年度 新3品種間における有望品種の検討 その1(4年目;本年度)

3. 概要

第1期の15年度は栴ヶ丸, しなの3号, しなの4号の3品種をパーク堆肥量, 追肥の有無, 活着剤の有無の違いなどにより生育調査を実施した。定植後は頻りに降雨があり3品種とも活着率が良好であった。パーク堆肥が多い試験区が特によかった。

16年度は初めて収穫ができた年である。昨年とは異なり小雨のため, 株の生長が悪かった。

17年度は頂芽部に寒冷紗を覆い, 高温障害を避ける方法で試した。しかし, 夏の渇水により株の生長に大きく影響し, 越冬芽数が著しく減少した(表1)。

表1 3品種間における株の生存率

品種・項目	H16	H17
岡山 栴ヶ丸	58.14 %	42.51 %

スカイブルしなの3号	65.70 %	50.90 %
スカイブルしなの4号	81.40 %	57.58 %

過去3年間の研究と本校の栽培環境から3品種間での有望品種はスカイブルしなの4号が最適であると考えられた。これを基に第2期では有望品種「スカイブルしなの4号」に菅生・草間地区で現在実証中である「フルハイジ」, 「サマハイジ」を加えた新3品種間での有望品種の検討に取り組んだ。

4. 方法

- 1)既存区に加え新たに栽培区を設置する。
- 2)畦(畦幅1 m 奥行き20m)の設営をする。
- 3)支柱, フラワーネット(地上50cm毎)の設置。
- 4)しなの4号, フルハイジ, サマハイジを不織布区(遮光率20%)と寒冷紗区(遮光率50%)に定植。
- 5)遮光区の違いによる活着調査をする。
- 6)年間を通して葉・花色, 草丈, 越冬芽数調査。

5. 結果

7, 8, 9月における葉色調査, 草丈調査を行った結果は以下の通りである。

1 葉・花色調査

表2 遮光の差異による葉色調査

日付・品種	スカイブルしなの4号		サマハイジ		フルハイジ	
	20%	50%	20%	50%	20%	50%
6/23						
7/25	×	×		×	×	
9/6	×					

・・・ディープグリーン, ...ビビッドグリーン,  
 ...ビビッドイエローグリーン, × ...ブライトイエローグリーン

葉色、花色調査は財団法人日本色彩研究所による。

表3 遮光の差異による花色調査

日付・品種	スカイブルしなの4号		サマハイジ		フルハイジ	
	20%	50%	20%	50%	20%	50%
9/11		×				×

・・・ディープブルー, ...ビビッドブルー,  
 ...ビビッドピンク, × ...未開花

## 2) 草丈調査

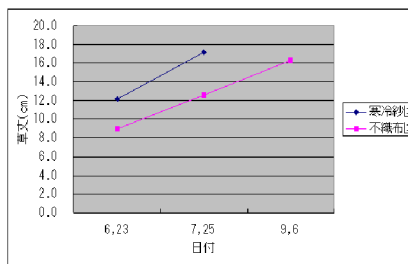


図1 しなの4号における草丈調査

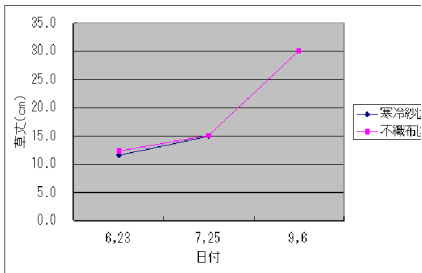


図2 サマーハイジにおける草丈調査

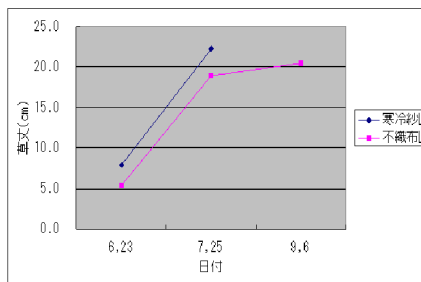


図3 ブルーハイジにおける草丈調査

## 3) 越冬芽数調査

表4 新3品種の株の生存率

品種・項目	生存率 (H18)
スカイブルーしなの4号	62.50 %
ブルーハイジ	92.73 %
サマーハイジ	96.43 %

## 4) 遮光率の差異による温度調査

7月晴天の正午の気温 32 差 4.2

不織布区 (遮光率 20 %) 28.7

寒冷紗区 (遮光率 50 %) 24.5

## 5. 考察とまとめ

### 1) 葉・花色調査

開花期の9月時点ではサマーハイジが3品種の中で草丈が高く良好で充実していた(図1, 2, 3)。また、しなの4号を除きサマーハイジとブルーハイジは遮光率の高低よりも、時期により被覆材の交換を考える必要がある。

今年は新品种導入の初年度であり、活着するまで

は高遮光率の方がよいように思われた。しかし、サマーハイジでは低遮光率の方が本来に近い深い緑色を呈しており着色がよかった。この品種は3品種の中で温度に強い品種であると思われる。花色調査では本来の色を呈した。

## 2) 草丈調査

しなの4号, ブルーハイジにおいて高遮光率の方が草丈が良く生長できていた。これにより寒冷紗の効果が極めて高いということがいえる。これは昨年度まで栽培していたしなの4号で特に顕著に表れていた(図1, 2, 3)。逆にサマーハイジでは、6月の時点で低遮光率の方がよかった。また、9月時点で高遮光率の方はほとんどの株が枯死していたためデータが集められなかった。草丈調査においてサマーハイジは注目すべき品種である。

## 3) 越冬芽数調査

越冬芽を充実させるため夏の高温, 土壌の乾燥を防ぐため, 灌水を適宜行った。昨年に比べ夏の雨量があり株の活着に関し良い成果が表れた。ブルーハイジ, サマーハイジでは90%以上の株が越冬芽として生長できていた(表4)。

サマーハイジは葉・花色, 草丈, 越冬芽の3項目において低遮光率の方が生育が良好だった。このことから比較的高温に対する適応性があることが分かった。以上より, 今年度の研究を総合的に判断するとサマーハイジが本校の位置する低標高地での有望品種に一番近いと考えられる。収穫, 出荷の指導を生徒のインターンシップを利用して新見市大佐の谷村悦子氏から受けた。今後も先進農家への研修の機会を随時入れ, 市場の情報を得ていきたい。そして, 本校独自の研究である「遮光率と花質の関係」を来年度の研究として進めていきたい。リンドウの低標高地栽培を確立することは地域の産地化を進めることにつながる。地域に必要とされる学校を生徒と共に目指して日々を大切に過ごしていきたい。

## 6. おわりに

新見市をはじめ, 農業普及センター, リンドウ農家, 本校職員, 研究に携わった本校生徒に厚く深く, 御礼申し上げます。